

第3次まちごとキャンパス構想

令和8年4月1日
島根県立島根中央高等学校

巻頭言

島根県立島根中央高等学校は、島根県立川本高等学校（大正13年開校）と島根県立邑智高等学校（昭和23年開校）が統合され、平成19年4月に新たに開校しました。生徒たちへの望ましい教育環境の提供と、学校の活性化という使命のもと、統合再編成されました。

「地域を愛し、夢をかなえる若人の育成～島根の中央からの挑戦」を掲げ、様々な特色ある教育活動をこの18年間展開しています。この間、令和3年には「教育創生コンソーシアム島根中央」が発足し、地域社会との連携が一層強化され、地域との協働体制の整備が着々と進みました。

この「まちごとキャンパス構想」は、中長期視点で平成27年に島根中央高校の「高校魅力化・活性化事業」を、戦略的に立案・実行するために策定され、5年ごとに省察されながら2回の改定を経て、今回3度目（令和8年度～令和12年度）の改定の運びとなりました。

島根中央高校が、地域とともに取り組んでいる様々な教育実践は、生徒たちが、これからの変化の激しい社会の中で生き抜いていく力となる「主体的に課題を見つけ、様々な他者と協働しながら、定まった答えのない課題にも粘り強く向かって行く力」を育成するうえで、大変重要な教育活動であると考えています。

また、平成24年度からは学校後援会の支援を受けながら、県外からの入学生を積極的に受け入れ、令和7年度は在籍生徒240名のうち95名、全校の3分の1以上が県外中学校の出身者となり出身中学校の数は117校を数えました。本校に集い互いに関わり合うことで、文化や価値観の多様性を認め合い、他者を尊重することの大切さを学び、これからの生き方、在り方を考える機会を得ています。また、地域の方々との交流を通じて多くの生徒が人間性を高め社会性を身につけるとともに、地域に貢献することの意義を学んでいます。ここで学ぶ生徒たちが卒業後、ふるさとを思うことができる人間味のあるクリエイティブリーダー（小さな変化を起こせる人）として巣立つことを期待しているところです。

今回の改定に際して、しまね教育振興ビジョンの基本目標や県立高校魅力化ビジョンの後半5年間の具体的な取り組み（令和7年度～令和11年度）に示されている、「生きる力」を育む魅力ある高校と地域づくりの推進を更に具現化するために、「第3次まちごとキャンパス構想」を進めてまいります。地域に根ざした小さな高校が大きな教育効果を全県に広げ、全国に誇れる島根らしい魅力ある学校づくりにさらにアップデートし、邁進したいと考えます。

結びになりますが、学校設立以来これまで新しい学校づくりに尽力されました川本町、美郷町をはじめとする関係の皆さま、PTA、学校後援会、卒業生会の皆さま方に重ねてお礼を申し上げますとともに、今後も本校に対しまして引き続きご支援とご指導をいただきますことをお願い申し上げます。

島根県立島根中央高等学校

校長 渡 邊 勝 義

目次

巻頭言

第1章 構想策定の背景

第1節 第3次まちごとキャンパス構想策定について	2
第2節 島根中央高校の現状	
(1) 教育課程・特色ある取り組み	3
(2) 生徒募集活動と生徒数	4
(3) 部活動	6
(4) 進路状況	7
(5) 寮生活	8
(6) その他	8
第3節 第2次まちごとキャンパス構想に基づく各取り組みの成果と課題	
(1) 目標および評価基準と評価結果	10

第2章 第3次まちごとキャンパス構想

第1節 目指すビジョン	
(1) 目指すビジョン・グラウンドデザイン	26
第2節 第3次まちごとキャンパス構想の役割と基本方針	
(1) 構想の役割	27
(2) 基本方針	27
第3節 具体的取り組みと役割分担	
(1) 学習支援	29
(2) 地域協働学習	30
(3) 部活動支援	32
(4) 生活支援	33
(5) 人財循環	34
(6) 協働推進体制	36
第4節 推進体制と具体的取り組みの評価	
(1) 高校魅力化コンソーシアム	37
(2) 目標および評価基準と評価方法	38
【資料】 役割分担	45
策定委員会	48

第1章

構想策定の背景

第1章 第1節 第3次まちごとキャンパス構想について

本校では平成24年度より「高校魅力化・活性化事業」に取り組んでいる。その歩みの中で進めてきた事業の総括とそれらを踏まえた戦略の立案・実行を表した「島根中央高等学校まちごとキャンパス構想」を平成27年3月に策定し、魅力化・活性化の推進を進めてきた。

一方で、本構想は本校を取り巻く状況の変化に対応するため令和4年に第2次構想に改訂された。今回さらに5年が経過する令和8年のタイミングで新たに本校を取り巻く環境に合わせて内容を一部変更した。

第1章 第2節 島根中央高校の現状

1) 教育課程

本校は、1年次には自分の適性や進路を模索し、2年次から「自然科学コース」「人文科学コース」「地域デザインコース」3つの設定されたコースから自分の進路に合わせたコースを選択する形態をとっている。

「自然科学コース」「人文科学コース」については、令和6年度よりルートと呼ばれる具体的な履修科目の組み合わせで構成された教育課程が設定された。このルートの設定は、多様な進路目標を達成するため、最適な選択科目を履修できるようにしたものである。

地域デザインコースにおいては学校設定科目として開設されている「まちごとキャンパス学習」、「ふるさと学」、「地域デザイン」などの特徴的な取り組みがある。地域を題材にすることで、社会との関りを考えながら自らの進路や将来を考えることができる科目となっている。

教育課程表については毎年度発行される「学校要覧」に掲載されている。



■石見銀山保全活動

(ユネスコスクール世界遺産保全活動)

1年次のみの実施。ユネスコスクール活動の一環として大田市大森町内の清掃活動を実施。



■総合的な探究の時間

1年次は地域をテーマとして活動。地域の自然、文化、歴史、産業などについて知る機会とする。



■まちごとキャンパス学習

地域デザインコース（2年次）の授業。半年程度の期間で職場体験実習を実施。



■ふるさと学

地域デザインコース（2年次）の授業。農業体験学習、林業体験学習を実施。

2) 生徒募集活動と生徒数

開校当初の平成19年度から令和7年度までの入学定員と生徒数の推移は以下の図1のようになっている。

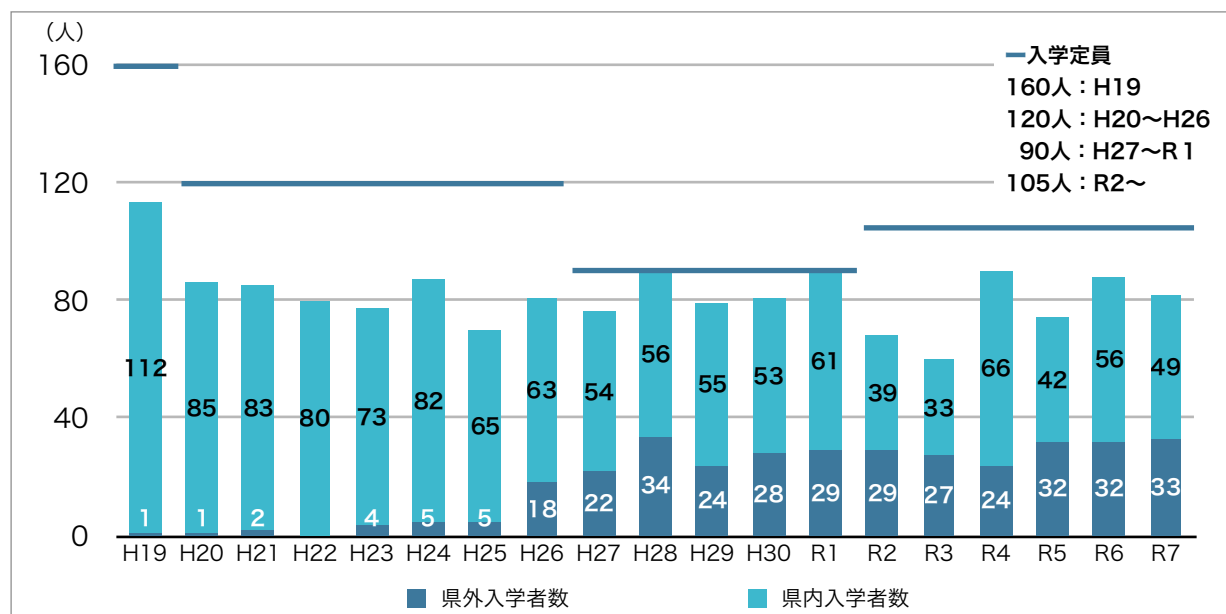


図1.県内外入学者数の推移

本校は令和2年度より島根県教育委員会が指定する「しまね留学推進校」として引き続き、県外生徒募集を継続していく計画である。

なお、「しまね留学」の取り組みは、一般財団法人地域・教育魅力化プラットフォームにより「地域みらい留学」として全国の多くの高校にその動きが広がっており、年々加盟登録校が増加しつつある。

<主な生徒募集の取り組み>

- 学校案内パンフレットおよびPR動画の作成
- 県内中学校訪問（進路説明会参加）
- 部顧問による訪問募集活動（県内外中学校やクラブチーム等）
- オープンスクール
- 学校だより「島根中央高校だより」を県内中学校へ配布
- 県外対象の説明会
- 学校見学受け入れ など

県内の中学校に目を向けると、図2にあるように川本、邑智、大和、桜江各中学校の卒業予定者数が、仮に全員入学したとしても、入学定員を充足することはなく、県外からの生徒募集が必要であり、引き続き、生徒募集につながるより効果的な魅力化事業の展開が求められる。

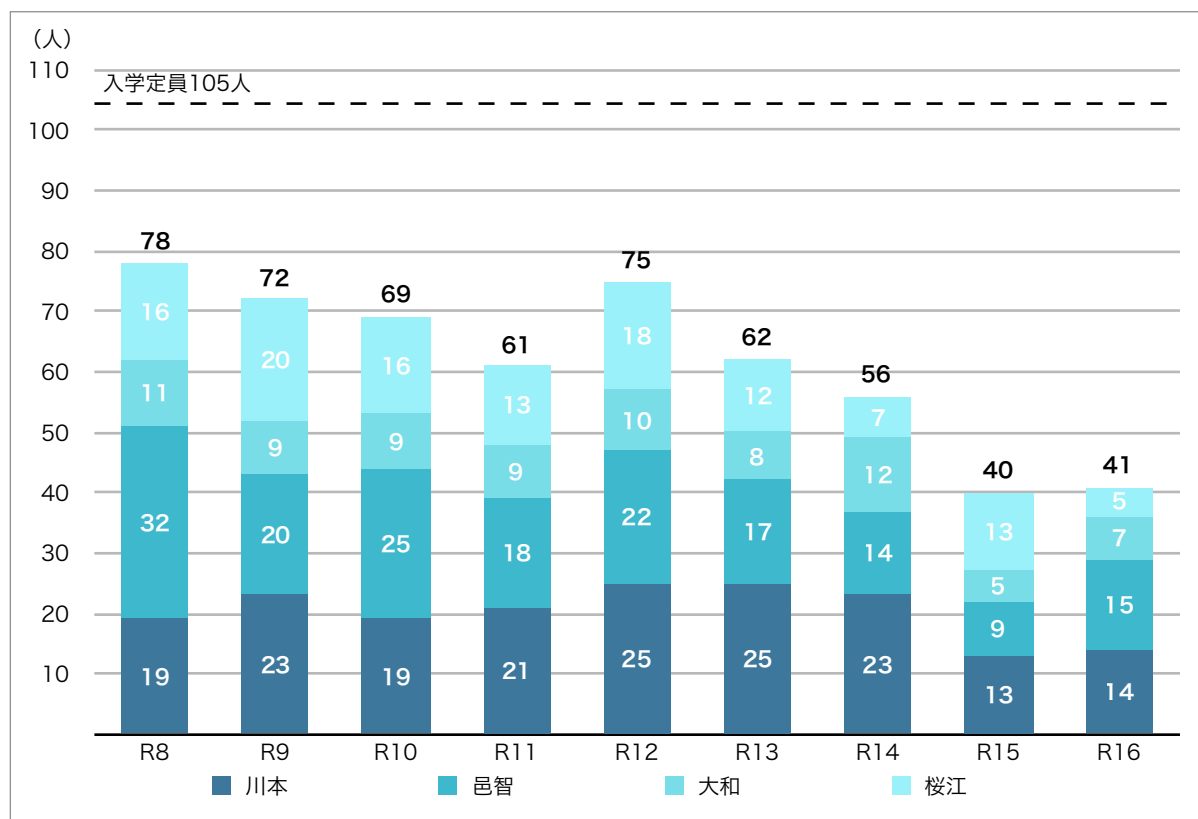


図2.周辺地域の中学校卒業生予想数

3) 部活動

令和7年度現在の部活動数と部員数（延べ数）は表1のとおりである。希望する個々の生徒に、充実した高校生活が提供できるような体制を維持している。

令和7年度には、男子硬式野球部は島根県高等学校秋季野球大会において優勝、カヌー部は、美郷町に新設されたカヌー競技場「カヌーパークみさと カヌーレIMAI」で開催された全国高校総体で活躍、吹奏楽部も全国吹奏楽コンクール島根県大会高等学校Aの部（大編成）で金賞を受賞するなど、各部が活躍し優れた実績を残している。

一方で、部活動に所属している生徒の約6割が男女硬式野球部、カヌー部、吹奏楽部の所属であり、この4つの部を除くその他の部は部員数が少なく、活動維持に苦慮している面も見られる。

表1.部活動の種類と部員数 （令和7年5月時点）

部活動の種類		部員数	部活動の種類		部員数
運動系	男子硬式野球	51	文化系	吹奏楽	28
	女子硬式野球	39		美術	10
	カヌー	24		写真	8
	陸上競技	12		デジタル探究部	8
	バレーボール	11		新聞	6
	ソフトテニス	9		自然科学	5
	バスケットボール	9		茶華道	2
	剣道	0			
	小計	155		小計	67
合計		222	部活動加入率		95.4%

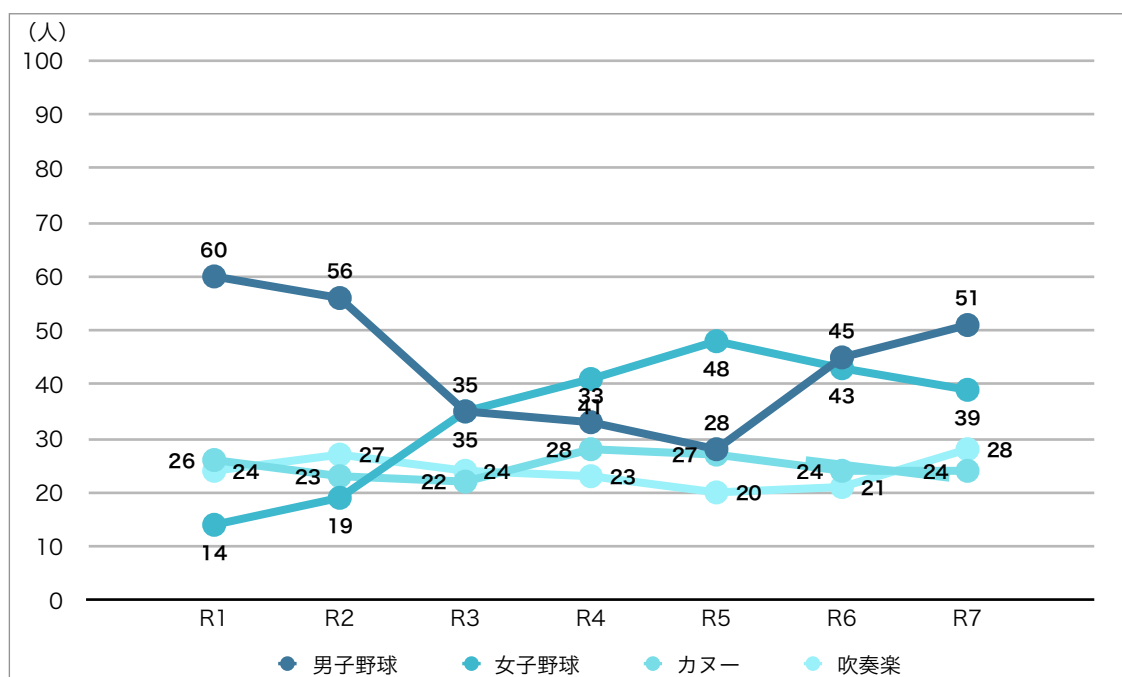


図3.部員推移（野球、吹奏楽、カヌー）

4) 進路状況

進学・就職の状況は下表のとおりとなっている。国公立・私立四年制大学、短期大学、専門学校への進学、公務員や民間企業への就職など幅広い進路希望をもつ生徒が在籍しているのが本校の特徴である。

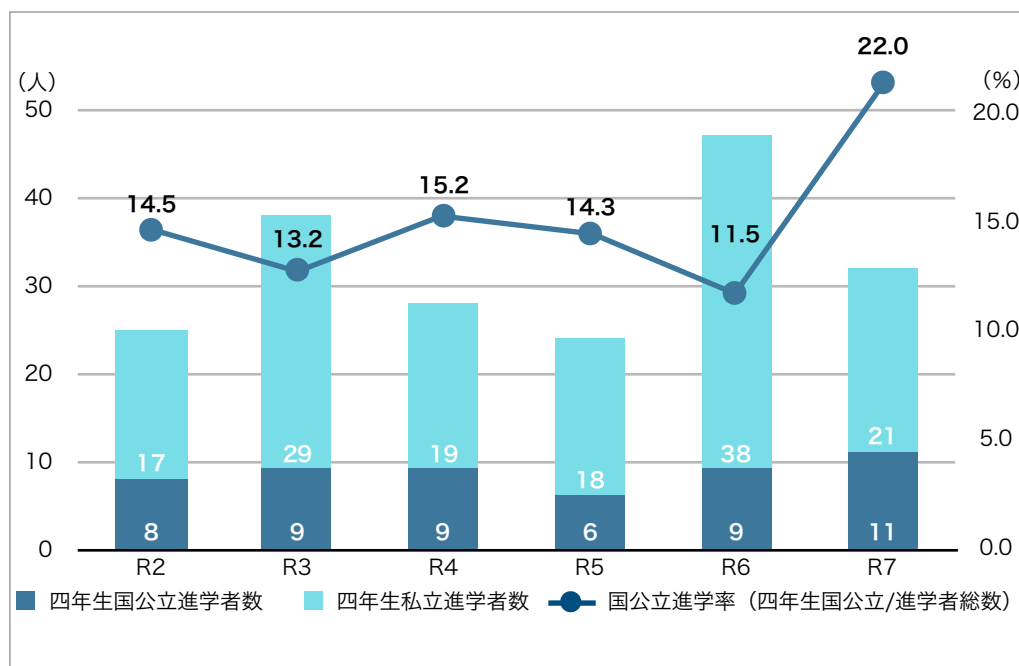


図4.国公立・私立進学者数と国公立進学率の推移

表2.卒業生の進路

	四年制大学		短期大学		専門 学校	就職		卒業生数
	国公立	私立	公立	私立		公務員	民間	
R7	11	21	0	1	17	3	13	70
R6	9	38	0	1	30	2	8	88
R5	6	18	0	4	14	3	11	56
R4	9	19	1	1	29	5	3	67
R3	9	29	1	5	24	4	15	89
R2	8	17	1	4	25	3	13	76
R1 (H31)	6	25	-	-	24	-	17	72
H30	3	35	0	1	26	5	11	85
H29	7	21	0	4	20	4	12	74
H28	5	18	1	3	24	1	22	77
H27	7	9	2	5	27	-	11	61
H26	4	21	1	3	26	1	23	83

5) 寮生活

県外生に加え県内他地域の寮生もあり、全校生徒の約半数以上が寮生である。

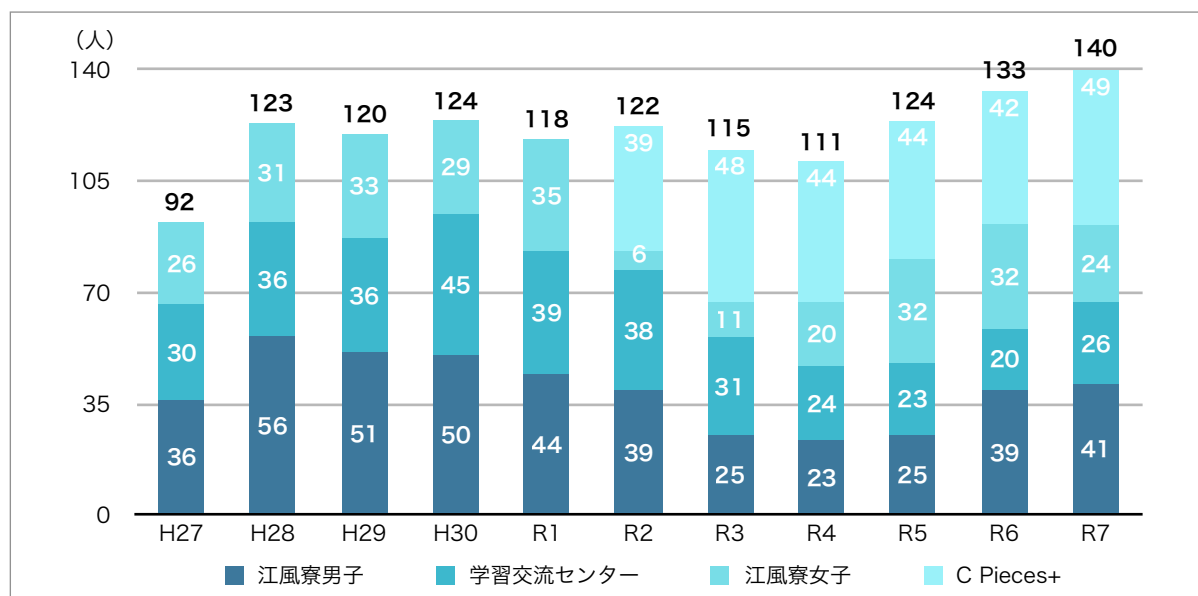


図5.寮生数の推移

6) その他

本校は平成24年1月にユネスコスクール※1として認定されている。1年次に毎年実施している石見銀山の保全活動等はユネスコスクールの世界遺産保全活動の取り組みの一つである。

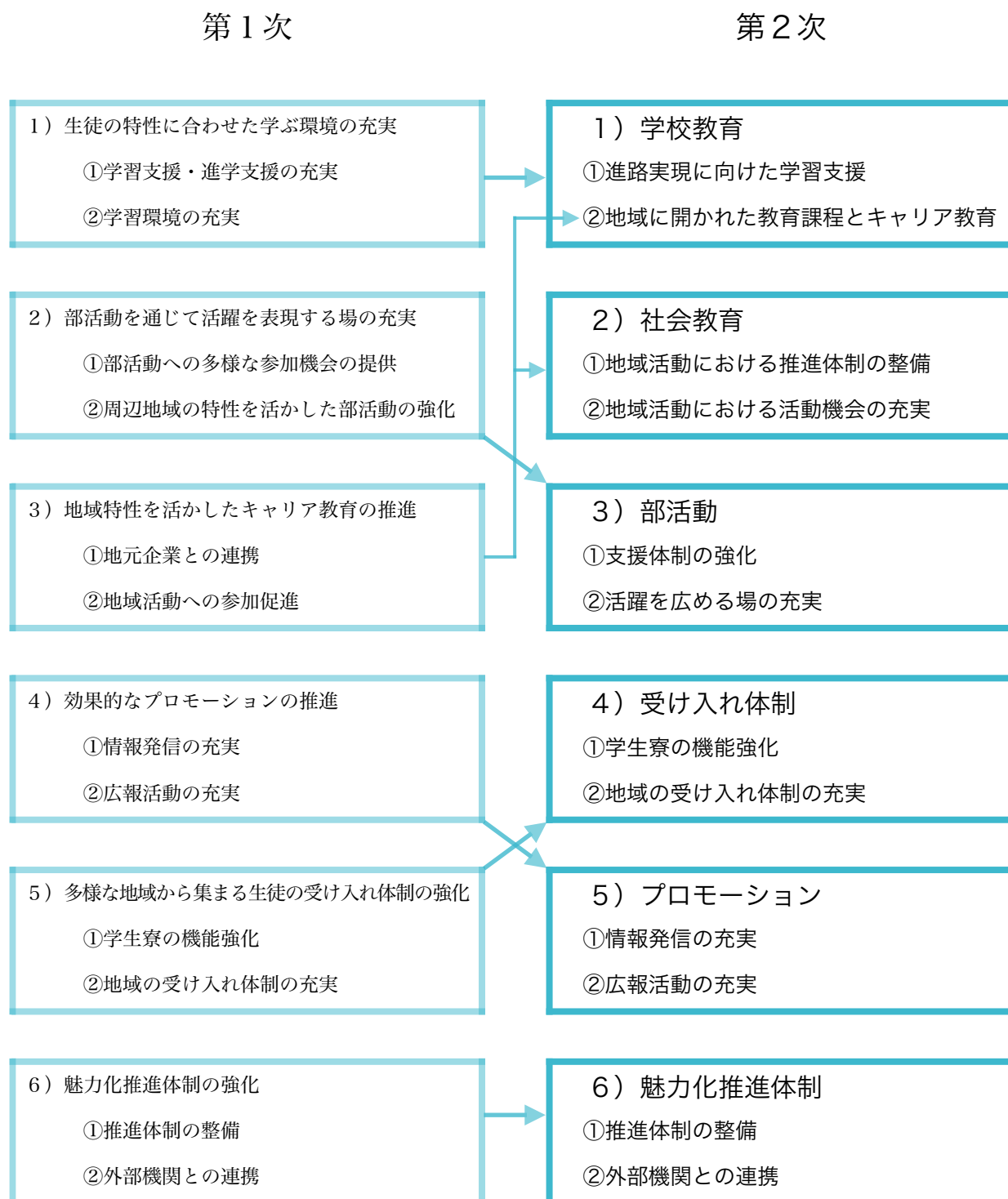
※1

ASPnet (Associated Schools Project Network) としてユネスコ憲章に示された理念を学校現場で実践するため、国際理解教育の実験的な試みを比較研究し、その調整をはかる共同体として1953年に発足。本校では環境教育、国際理解教育や世界遺産・地域の文化財等に関する教育とするために、教職員の共通理解や意識の向上を図り、教科学習や特別活動にも「持続可能な開発のための教育＝Education for Sustainable Development (E S D教育)」を視野に入れた取り組みを行なっている。



第1章 第3節 第2次まちごとキャンパス構想に基づく各取り組みの成果と課題

＜第2次まちごとキャンパス構想の基本方針＞



第1章 第3節 第2次まちごとキャンパス構想に基づく各取り組みの成果と課題

1) 目標および評価基準と評価結果

①学校教育

①進路実現に向けた学習支援

番号	事業名	第2次構想の具体的取り組み	
		目標	評価方法
		評価基準（3 良い 2 ふつう 1 悪い）	
		成果・特記事項	
1	総合選抜型・学校推薦型選抜（旧AO・推薦入試）対策の強化	全学年希望者を対象に、外部講師を招いて指導を行う。プレゼンテーションや小論文等の試験で問われる指導に加え、自己整理等試験対策の下地になるサポートも行う。	
		志望大学、短大に合格できたか	入試合否結果
		3 受験者の5割以上が合格 2 受験者の3割以上5割未満が合格 1 受験者の3割未満が合格	【評価】 3.0
		【成果】外部講師等の協力を得て、生徒個人のキャリアを振り返り、要約、プレゼンテーションを行うことにより、希望の大学や専門学校へ進学を果たすことができた。	
2	進学ゼミの強化	進学ゼミ実施日とその科目を年間行事予定に加える。外部講師を招いて英数国を中心に日常の学習環境を整える。日常の学習環境整備、勉強合宿、予備校派遣等を通じて国公立大学・難関大学への進学を希望する生徒へのトータルサポートを行う。	
		対外模試、学力テストの成績が向上したか 国公立大学、難関私立大学に合格できたか	(1) 生徒の学習成績 (2) 入試合否結果
		(1) 生徒の学習成績 3 5割以上の生徒が成績向上 2 3割以上5割未満の生徒が成績向上 1 3割未満の生徒が成績向上 (2) 入試合否結果	【評価】 2.0
		3 国公立大学、難関私立大学合格者数が10名以上 2 国公立大学、難関私立大学合格者数が5名以上10名未満 1 国公立大学、難関私立大学合格者数が5名未満	【評価】 2.8
		【成果】広島等で行われる「進学（大学）説明会」への参加（年3回程度）、三瓶での「勉強合宿」などを企画・実施した。また、休日の学校開放を行った。そのため、進路目標の確立や、学びへ姿勢を高めることができた。	

第1章 第3節 第2次まちごとキャンパス構想に基づく各取り組みの成果と課題

1) 目標および評価基準と評価結果

①学校教育

①進路実現に向けた学習支援

番号	事業名	第2次構想の具体的取り組み	
		目標	評価方法
		評価基準（3 良い 2 ふつう 1 悪い）	
		成果・特記事項	
3	公務員講座の開設	公務員模試に照準を合わせ松江の専門学校講師に依頼。3～4回程度。実施日は年間行事予定に加える。	
		公務員模試の成績結果が伸長したか 公務員試験に合格できたか	(1) 生徒の学習成績 (2) 入試合否結果
		(1) 生徒の学習成績 3 5割以上の生徒が成績向上 2 3割以上5割未満の生徒が成績向上 1 3割未満の生徒が成績向上 (2) 入試合否結果 3 公務員志望者5割以上が合格 2 公務員志望者3割以上5割未満が合格 1 公務員志望者3割未満が合格	【評価】 2.6 【評価】 3.0
		【成果】公務員志望者の人数が上下するため対応策の濃淡が生じた。夏季休業中などに「公務員特別講座」を実施し、外部講師の方から試験対策や面接等の指導を受けた。国家公務員や行政、公安など幅広い分野で合格を得ている。	
4	大学生による学習サポート	定期試験前の日曜日に大学生による個別指導を年3回程度。今後は土日の2日間行う。	
		積極的かつ自発的に学習に取り組むことができたか	参加者の満足度（振り返りアンケート）
		3 参加者の満足率が8割以上 2 参加者の満足率が5割以上8割未満 1 参加者の満足率が5割未満	【評価】 1.2
		【成果】サポートする大学生の確保が難しい時期もあった。試験前や土日に限らず、平日にも対応があった。「大学とは？」といった話題も多く、生徒のキャリア形成に大きく役立っている。 【特記事項】令和7年度より公営塾が運用を開始し、生徒の学習への取り組みを促進できる環境ができた。	

①学校教育

②地域に開かれた教育課程とキャリア教育

番号	事業名	第2次構想の具体的取り組み	
		目標	評価方法
		評価基準（3 良い 2 ふつう 1 悪い）	
		成果・特記事項	
1	生徒と地元社会人との交流	地域への思いをもって仕事や活動をしている社会人や大学生との交流の場を設定する。（総合的な探究の時間など）	
		生徒と地元社会人との交流会が実施できたか	実施の有無
		2 実施できた 1 実施できなかった	【評価】 1.8
		【成果】総合的な探究の時間や地域デザインコースにおける校外活動、石見銀山活動等、多くの地域の方の協力を頂き、交流の場を設定することができた。	
2	企業と連携した取り組み	生徒の進路希望に応じたキャリア学習を企業と連携しながら行う。また、生徒が企業の魅力を知る機会など、生徒と企業をつなぐ場の創出に取り組む。（総合的な探究の時間、まちごとキャンパス学習、地域デザインなどで実施）	
		企業と連携したキャリア学習が行えたか	担当者による振り返り
		担当者間での相互評価に代える	【評価】 2.0
		【成果】総合的な探究の時間を利用した校外での活動や企業訪問・企業ガイダンス等のイベントが生徒と企業をつなぐ場として機能した。	
3	地域をフィールドとした探究学習	探究学習の基礎的な考え方を身につけた上で、自ら課題を見つけ、地域をフィールドにして課題を解決する能力を育成する。（総合的な探究の時間、ふるさと学などで実施）	
		主体的に学習に取り組み、探究する態度を身につけることができたか	科目の評価
		3 ほとんどの生徒が主体的に取り組み、探究する態度を身につけることができた 2 半分以上の生徒が主体的に取り組み、探究する態度を身につけることができた 1 良い態度で取り組む生徒が少なく、探究する態度を身につけることができなかった	【評価】 3.0
		【成果】総合的な探究の時間およびふるさと学習において主に川本町・美郷町をフィールドにした活動を行った。	
4	インターンシップ	将来の志望職種を考えるためのインターンシップの実施。町内だけでなく他地域も含め、できる限り生徒の希望に則したかたちで実施する。インターンシップでの経験を進路選択に活用していく。（総合的な探究の時間など）	
		志望職種を考えるためのインターンシップが実施できたか	実施の有無
		2 実施できた 1 実施できなかった	【評価】 2.0
		【成果】地域デザインコースでのまちキャン学習、保育実習体験で実施。また、看護体験のような外部団体が実施するインターンシップへの参加を促すことで取り組んできた。	

②社会教育

①地域活動における推進体制の整備

番号	事業名	第2次構想の具体的取り組み		
		目標	評価方法	
		評価基準（3 良い 2 ふつう 1 悪い）		
		成果・特記事項		
1	地域活動の参加機会の拡大	川本町・美郷町・江津市桜江町等において、担当者間の連携を強化することにより、多様な地域活動の機会を提供する。同時に、地域活動の情報を生徒・地域・高校が共有し、広く周知する仕組みを整える。		
		参加機会を拡大できたか	地域活動への参加機会数	
		3 担当者間で連携し、参加機会数の拡大につなげることが大いにできた 2 担当者間で連携し、参加機会数の拡大につなげることがまあまあできた 1 担当者間で連携し、参加機会数の拡大につなげることがあまりできなかった	【評価】 3.0	
		【成果】地域活動担当者（Linkベース）が情報を集約することで、生徒の活動を促す仕組みが構築できていた。 【特記事項】情報の周知に加え、生徒の活動を直接支援することもあったが、勤務時間や責任の所在等に注意が必要である。		
2	活動へ参加する生徒へのサポート	地域活動の受け入れ先や校内での調整を行い、生徒が安心、安全に参加できる環境を整えることにより、生徒の活動参加につなげる。		
		関係者の調整・サポートが生徒の活動参加につながったか	地域活動への参加回数	
		3 活動機会のほぼ全てについて調整・サポートができ、生徒の地域活動参加につながった 2 活動機会の半数程度について調整・サポートができ、生徒の地域活動参加につながった 1 活動機会の半数以下しか調整・サポートができず、生徒の地域活動参加につながらなかった	【評価】 3.0	
		【成果】1と同様。		
3	地域活動の経験活用	ボランティア、イベントなど生徒が参加した活動をキャリアパスポートに記録し、その実績を生徒自身が活用できるような仕組みをつくる。		
		地域活動に参加した生徒の記録が蓄積されているか	活動の記録と蓄積状況	
		3 キャリアパスポートを利用して地域活動について全て記録しており、いつでも振り返ることができる 2 キャリアパスポートを利用して地域活動についてだいたい記録しており、振り返ることができる 1 キャリアパスポートを利用して地域活動についてほとんど記録、蓄積することができなかった	【評価】 2.0	
		【成果】1と同様。加えて、進路部にキャリアパスポートの実施計画を検討・実施をしてきた。		

②社会教育

②地域活動における活動機会の充実

番号	事業名	第2次構想の具体的取り組み	
		目標	評価方法
		評価基準（3 良い 2 ふつう 1 悪い）	
		成果・特記事項	
1	生徒が主体となった地域連携活動	川本町教育委員会と連携し、生徒が町民を対象とした社会教育事業の企画や運営を行う。	
		生徒が主体となって企画ができたか	企画数
		3 生徒が主体となった企画が複数あった 2 生徒が主体となった企画があった 1 生徒が主体となった企画はなかった	【評価】 2.6
		【成果】川本町探究フェスタに参加した。活動そのものは主体的にしたが、企画や運営を行うものではなかった。	
2	部活動単位での地域活動への参加	部活動単位で地域行事（スポーツイベント、祭り、講演会、交流会など）に参加する機会を作る。	
		部活動単位で地域活動に参加したか	参加部活動延べ回数
		3 年に11団体以上参加した 2 年に7～10団体参加した 1 年に6団体以下参加した	【評価】 1.2
		【成果】人数の多い男女野球部が地域の行事にボランティアとして参加することはあったが、練習スケジュールや引率する職員のスケジュールの調整の難しさもあり、特定の部活動での活動となった。	
3	マイプロジェクト参加への支援	マイプロジェクト参加への呼びかけや参加する生徒への伴走を行う。	
		生徒が参加したか	参加プロジェクト数
		3 参加プロジェクト数が3つ以上あった 2 参加プロジェクト数が1～2つあった 1 参加プロジェクトがなかった	【評価】 2.0
		【成果】マイプロジェクトは取り組む期間が長く、内容についても簡単に手を出せるものではないこともあり希望する生徒は少なかった。 【特記事項】支援に係る負担は大きい。	
4	自治会との連携による地域課題への対応	人口減少、高齢化に伴う地域の課題に対し、自治会と生徒が協力し解決に向けて取り組む。	
		地域課題の解決に取り組んだか	参加活動数
		3 生徒が参加した活動数が3つ以上あった 2 生徒が参加した活動数が1～2つあった 1 生徒が参加した活動がなかった	【評価】 2.4
		【成果】総合的な探究の時間において1年生が地域をテーマとして地域課題等に取り組んでいる。また、地域デザインコースの生徒が清掃等の地域団体の活動の手伝いを実施したことがあった。 【特記事項】ボランティアの活動として、継続的な取り組みよりも短期的な活動が中心であった。	

②社会教育

②地域活動における活動機会の充実

番号	事業名	第2次構想の具体的取り組み	
		目標	評価方法
		評価基準（3 良い 2 ふつう 1 悪い）	
		成果・特記事項	
5	保・小・中・高が連携した交流活動	教育委員会が主催する社会教育事業等を活用し、保・小・中・高が連携した交流活動を提供する。	
		交流活動に参加したか	参加活動数
		3 生徒が参加した活動数が3つ以上あった 2 生徒が参加した活動数が1～2つあった 1 生徒が参加した活動がなかった	【評価】 3.0
		【成果】かわもと一く、みさと一く、川本町探究フェスタへの参加があった。 【特記事項】イベントが授業日の場合、参加生徒はその時間帯の授業を受ける事ができないため、開催の日程や時間帯については十分に考慮する必要がある。	
6	大学生や外国人（留学生など）との交流活動	大学生や外国人の方がさまざまな目的で来町する機会を活用し、生徒と交流できる機会を作る。	
		大学生や外国人との交流活動に参加したか	参加活動数
		3 生徒が参加した活動数が3つ以上あった 2 生徒が参加した活動数が1～2つあった 1 生徒が参加した活動がなかった	【評価】 2.8
		【成果】島根県立大学が実施する短期留学生滞在プログラムの1つとして外国人留学生との交流を実施している。大学生が総合的な探究の時間に関わることもあった。 【特記事項】どの授業を利用して交流の場を設定するかは慎重に検討する必要がある。	
7	人財定住助成金事業の活動	町が実施する人財定住助成金事業を活用し、多くの生徒が自分計画書を発表できるよう支援する。	
		事業を活用する生徒がいたか	活用者数
		3 10名以上が事業に申請した 2 10名未満が事業に申請した 1 申請者がいなかった (申請者のうち3名程度がUターンすることを目標とする)	【評価】 2.2
		【成果】数名だが、毎年一定数の応募がある。 【特記事項】参加人数は少ないが、いずれも意識の高い生徒の参加である。	

③部活動

①支援体制の強化

番号	事業名	第2次構想の具体的取り組み	
		目標	評価方法
		評価基準（3 良い 2 ふつう 1 悪い）	
		成果・特記事項	
1	外部資金の確保	クラウドファンディングや助成金・補助金を活用し、部活動で使用する設備・備品の充実や活動の強化を図る。	
		設備や備品等が充足できているか（顧問・指導者評価）	充足度
		3 設備や備品等が8割以上充足できた 2 5割以上充足できた 1 5割未満充足できた	【評価】 2.4
		【成果】様々な支援をいただき生徒の活躍の場を広げることができた。 【特記事項】設備・備品の充実については、各部活動の実情等を集約し必要な支援を継続する必要がある。	
2	外部指導員の活用	専門的知識・経験を有した外部指導員等の活用を行うことで、部活動成績・生徒保護者の満足度の向上につなげる。	
		生徒・保護者が満足しているか	生徒・保護者満足度
		部活動に対して肯定的な回答の割合 （1）生徒の満足度 3 肯定的な回答が9割以上 2 肯定的な回答が8割以上9割未満 1 肯定的な回答が8割未満 （2）保護者の満足度 3 肯定的な回答が9割以上 2 肯定的な回答が8割以上9割未満 1 肯定的な回答が8割未満	【評価】 2.6 【評価】 2.6
		【成果】現在6つの部活動で外部指導員の方に指導をお願いしている。各部とも活発に活動が行われており、好成績を収めている部活動も多数ある。今後も積極的に活用を図る。	

③部活動

②活躍を広める場の充実

番号	事業名	第2次構想の具体的取り組み	
		目標	評価方法
		評価基準（3 良い 2 ふつう 1 悪い）	
		成果・特記事項	
1	適正な部活動数の維持と生徒のニーズに合った部活動の提供	適正な部活動数を維持する。また、近隣中学生の活動機会を広げるために高校の部活動を受け皿にする。	
		適正な部活動数を維持し、生徒に提供できたか	部活動加入率
		3 部活動加入率9割以上 2 部活動加入率8割以上9割未満 1 部活動加入率8割未満	【評価】 3.0
		【成果】令和7年度の部活動加入率は95.4%であり、直近5年間もほぼ同等の加入率が続いている。今後の入部状況や近隣の中学校の状況も踏まえ、適正な部活動数を維持していきたい。	
2	近隣中学校との合同練習や交流会の実施	近隣中学校に設置されている部活動と、合同練習やイベントなどで連携する。生徒による部活動の魅力PR活動を実施する。	
		合同練習や交流会を実施できたか	合同練習等の実施部活動数
		3 年に8割以上の団体が実施した 2 年に5割以上の団体が実施した 1 年に5割未満の団体が実施した (近隣中学校に設置されている部活動数に対する割合)	【評価】 1.4
		【成果】近隣の中学校にある部活動については積極的に合同練習などを行うことができている。今後も積極的に交流を行い、本校の魅力発信につなげていきたいと考えている。	

④受け入れ体制

①学生寮の機能強化

番号	事業名	第2次構想の具体的取り組み	
		目標	評価方法
		評価基準（3 良い 2 ふつう 1 悪い）	
		成果・特記事項	
1	施設運営の連携	各寮の運営について協議体※を設置し、会議を実施する。また、保護者との連携に向け、寮生保護者会などを通じた情報発信を積極的に行う。	
		施設の運営にあたり、各寮の運営協議体で会議が開催されているか	開催回数
		3 年に3回開催されている 2 年に2回開催されている 1 年に1回開催されている	【評価】 2.8
		【成果】毎年4月年度当初に寮運営にかかわる会議を実施し、前年度の反省や改善点の確認をして共通理解の場を設けている。これを受けて各寮での関係者会を開催し、時々の問題点や情報交換を行っている。毎週月曜日には寮務会議を実施し、行事や生徒の様子を確認をしている。保護者にはマチコミメールでの情報発信や年2回の寮だよりの発行、年1回のオンラインでの保護者会を実施し要望や意見を聞いている。 【特記事項】今後も高校支援室・保護者・学校との連携と情報交換が必要である。	
2	寮生による自治運営	寮生活を通じた人間形成、課題解決力の向上、充実した生活環境維持に向け「自治運営」の仕組みをつくる。	
		寮長会議が定期的に開催されているか	生徒の取り組み状況
		3 月1回開催されている 2 隔月に開催されている 1 学期に1回開催されている	【評価】 3.0
		【成果】コーディネーター、トレーナー、幹部生徒が中心となり定期的あるいは必要に応じて幹部会を開催し全体へ投げかけ寮の生活や環境改善を実施している。また、学年や部活動等、自主的なミーティングも行われている。 【特記事項】今後は大人も含めた3寮合同の幹部会の実施も必要と思われる。	
3	寮生によるイベント実施	寮生がイベントを企画する。また、3つの寮合同のイベント実施について検討していく。	
		寮生企画のイベントが実施できたか	実施回数
		3 寮生企画のイベントが各寮年に3回以上 2 寮生企画のイベントが各寮年に2回以上 1 寮生企画のイベントが各寮年に1回以上	【評価】 3.0
		【成果】幹部生徒が中心となり、新入生歓迎行事や各寮独自のイベント企画（ハロウィンやクリスマス会等）などを行い皆で楽しむ姿が見られる。その様子はインスタグラムにも掲載している。 【特記事項】3寮合同企画は部活動や行事の関係で実施できていない。	

※協議体（寮務部、主任調理員、寮コーディネーター、寮トレーナー）

④受け入れ体制

①学生寮の機能強化

番号	事業名	第2次構想の具体的取り組み	
		目標	評価方法
		評価基準（3 良い 2 ふつう 1 悪い）	
		成果・特記事項	
4	食事の充実	定期的な食事アンケートを実施し、生徒のニーズ把握と食事の充実を図る。各学期に1回連続する土日、「川本の食を楽しむ日」をつくり、川本での食事を楽しむ場を充実させる。	
		食事の満足度	食事アンケート
		3 肯定的に答えた人が6割以上 2 肯定的に答えた人が4割以上6割未満 1 肯定的に答えた人が4割未満	【評価】 1.6
		【成果】食事アンケートの定期的実施はしており、誕生日メニューの希望調査等を実施し生徒のニーズ把握には努めている。川本の食を楽しむ日は町内に協力いただき楽しみなイベントになっている。 【特記事項】コロナ禍や食中毒発生、食材の高騰などコストの上昇、部活動顧問からの要望もあり食事の充実には寮費の値上げ、朝食の充実が必要である。	
5	地域活動に参加しやすい環境づくり	地域活動、伝統芸能などへの参加を促すため、情報の周知、参加への呼びかけ、門限の柔軟な対応などを行い環境を整える。	
		教育課程外の活動（地域活動、ボランティア活動など）に多くの寮生が参加出来ているか	参加生徒の割合
		3 年に1回参加した生徒が全寮生の5割以上 2 年に1回参加した生徒が全寮生の3割以上5割未満 1 年に1回参加した生徒が全寮生の3割未満	【評価】 2.6
		【成果】地域活動への参加は年にもよるが比較的活発である。江川太鼓、あそらぼ、各種ボランティア、川本町でのイベントに参加している生徒が多い。今後も生徒に情報発信を行い積極的な参加を促したい。	

④受け入れ体制

②地域の受け入れ体制の充実

番号	事業名	第2次構想の具体的取り組み	
		目標	評価方法
		評価基準（3 良い 2 ふつう 1 悪い）	
		成果・特記事項	
1	まち親確保のための取り組みの充実	高校、後援会の役割を明確化する。まち親募集活動のしくみをつくり、まち親が担う役割を明確にする。また、まち親だけを集め、情報交換や役割についての確認などを行う「まち親会」を実施する。	
		まち親が必要数確保できているか	まち親登録数
		3 必要数以上のまち親が確保されている 2 必要数のまち親が確保されている 1 まち親数が不足している	【評価】 2.0
		【成果】まち親の確保は高校支援室が中心となって行っている。	
2	通学に関わる支援	通学に便利なバスダイヤの継続を要望し、スクールバスを適切に運行する。	
		通学可能圏域が維持されているか	通学可能圏域
		3 公共交通機関により通学可能圏域が維持されている 2 公共交通機関とスクールバスの利用により通学可能圏域が維持されている 1 通学可能圏域が縮小している	【評価】 2.0
		【成果】公共交通機関のバスダイヤ改正の際には、通学に不便にならないように要望をしている。スクールバスについては、定期試験実施日など、適宜、運行時刻を変更している。	

⑤プロモーション

①情報発信の充実

番号	事業名	第2次構想の具体的取り組み	
		目標	評価方法
		評価基準（3 良い 2 ふつう 1 悪い）	
		成果・特記事項	
1	SNSによる情報発信	Instagramによって、さまざまな教育活動をタイムリーに発信する。	
		さまざまな教育活動をタイムリーに発信したか	更新回数
		3 更新回数が年間130回以上（3回/週） 2 更新回数が年間90回以上（2回/週） 1 更新回数が年間50回以下（1回/週）	【評価】 2.4
		【成果】学校行事他、ホームページでは伝えきることの難しい学校生活や行事などをこまめに発信することができた。 【特記事項】発信者が限定されていたため、今後は属人化しすぎないような体制を構築する。	
2	ホームページによる情報発信	ホームページによって、さまざまな教育活動を発信する。SNSとのリンクをはかる。	
		さまざまな教育活動をその都度分かりやすく発信できたか	アクセス数
		3 アクセス数が180以上（1日あたり） 2 アクセス数が130以上180未満（1日あたり） 1 アクセス数が130未満（1日あたり）	【評価】 2.0
		【成果】ホームページ内において、各部活動のInstagramのリンク先を掲載している。	
3	学校だよりによる情報発信	学校だより（「島根中央高校だより」）を発行し、中学校、近隣自治体住民へ配付する。また、中学校へは教員が持参し、情報交換を行う。	
		学校だよりを年4～6回発行できたか	発行回数
		3 発行回数が年間4～6回 2 発行回数が年間2～3回 1 発行回数が年間1回以下	【評価】 2.6
		【成果】継続的な実施ができた。	
4	自治体広報誌による情報発信	広報かわもとに学校だよりを掲載する。	
		広報かわもとに毎月掲載できたか	発行回数
		3 毎月掲載できた 2 2ヶ月に1回程度掲載できた 1 掲載がほとんどできなかった	【評価】 3.0
		【成果】学校の様子を分かりやすく伝える情報発信が、毎月できた。	

⑤プロモーション

②広報活動の充実

番号	事業名	第2次構想の具体的取り組み	
		目標	評価方法
		評価基準（3 良い 2 ふつう 1 悪い）	
		成果・特記事項	
1	学校パンフレットの作成	ホームページへの誘導媒体とし、高校生活がイメージできるような内容にする。	
		生徒・保護者の知りたいことに応えられていたか	担当者による振り返り
		3 適切だった 2 改善すべき点があった 1 大幅に改善すべき点があった	【評価】 3.0
		【成果】中学生が高校を選択するための情報源の1つになっている。 【特記事項】HPを閲覧するように誘導することを考える。	
2	イメージ映像の作成	高校生活のイメージが伝わる内容にする。	
		様々な場面で活用するのに適していたか	担当者による振り返り
		3 適切だった 2 改善すべき点があった 1 大幅に改善すべき点があった	【評価】 3.0
		【成果】1と同様。	
3	オープンスクールの充実	在校生を運営スタッフとして参加させて、生徒目線で高校の良さを中学生、保護者に伝える機会をつくる。保護者向け個別相談ブースを設定する。	
		参加者にとって魅力的な内容になっているか 適切な情報を参加者に伝えることができたか	担当者による振り返り
		担当者間での相互評価に代える	
		【成果】参加した中学生および保護者の事後アンケートより、効果的な広報活動になっていると判断できる。 【特記事項】実施の際の予算の確保が課題である。	
4	県外での説明会・相談会の参加・開催	県教委指定「しまね留学推進校」として、引き続き県外生徒募集を積極的に推進するために、県外で開催される募集事業に参加する。また、県外での単独説明会・保護者相談会も継続する。	
		継続的に参加できる体制（人・予算）が作れているか	参加・開催回数
		3 参加・開催した説明会等が計画に対して8割以上 2 参加・開催した説明会等が計画に対して3割以上8割未満 1 参加・開催した説明会等が計画に対して3割未満	【評価】 2.2
		【成果】地域みらい留学への参加により、しまね留学と並行した広報活動を実施している。 【特記事項】出張費等の予算の確保が課題である。	

⑤プロモーション

②広報活動の充実

番号	事業名	第2次構想の具体的取り組み	
		目標	評価方法
		評価基準（3 良い 2 ふつう 1 悪い）	
		成果・特記事項	
5	塾関係者との連携による継続的な生徒募集活動の実施	都市部の塾関係者との連携を継続的に図りながら、県外生徒募集活動の裾野を広げる。またそのために相互に情報共有を行う。	
		塾関係者と連携・情報共有を行いながら県外生徒募集活動を実施したか	担当者による振り返り
		担当者間での相互評価に代える	
		【成果】都市部塾からしまね留学を経て、みらい留学に移行したが、その中で塾関係者が本校の情報発信をしてくれた。 【特記事項】今後、塾運用を委託されている企業を通じた広報活動の可能を検討する。	
6	近隣小中学生保護者を対象とした説明会の開催	川本・美郷・桜江の小・中学生保護者を対象に各地域で説明会を実施し、ニーズを把握する。	
		年1回、川本・美郷・桜江地区で説明会を計画・開催し、保護者のニーズ把握ができたか	開催回数
		2 全ての地区で開催できた 1 全く開催できなかった	【評価】 1.6
		【成果】中学校については学校説明会を実施している。	
7	入試説明会の開催	中学3年生とその保護者を対象にした入試説明会を開催し、進路選択に必要な情報を伝えたり、個別相談ブースを設定する。	
		入試説明会を計画・開催し、適切な情報を生徒・保護者に伝えることができたか	開催回数
		2 計画・開催できた 1 計画・開催できなかった	【評価】 1.8
		【成果】6と同様。	
8	オンライン説明会の計画・開催	オンラインでの説明会を適時実施することで、より多くの方に本校を知っていただく機会を増やす。	
		オンライン説明会を計画・開催し、適切な情報を生徒・保護者に伝えることができたか	開催回数
		2 計画・開催できた 1 計画・開催できなかった	【評価】 1.8
		【成果】学校独自で計画・実施する形態から、地域みらい留学が企画するオンライン説明会を利用する形態に変化している。	

⑥魅力化推進体制

①推進体制の整備

番号	事業名	第2次構想の具体的取り組み	
		目標	評価方法
		評価基準（3 良い 2 ふつう 1 悪い）	
		成果・特記事項	
1	効果的な推進体制の構築	高校、後援会、魅力化コーディネーター、教育委員会（社会教育主事）、地域住民間で共通認識を持ち、目標の共有化と役割分担の明確化を行う。	
		高校、後援会、魅力化コーディネーター、教育委員会（社会教育主事）、地域住民間で共通認識を持ち、目標の共有化と役割分担の明確化を行われたか	担当者による振り返り
		3 共通認識を持ち、目標の共有・役割分担の明確化ができています 2 共通認識を持ち、目標の共有はできている 1 共通認識が持てていない	【評価】 2.8
		【成果】Linkベース・主幹教諭が仲介となり、高校支援室と学校との間で情報共有が行われ、連携が保たれている。	
2	各事業の評価	1 次～3 次の段階を踏んで検証を実施する。 1 次（担当者間検証） 2 次（事務局間検証） 3 次（コンソーシアムの理事会）	
		評価が適切に行われたか	総合評価
		3 3 次審査ができた 2 2 次審査ができた 1 1 次審査ができた	【評価】 2.4
		【成果】年度末のコンソーシアム理事会において評価結果を提示している。	
3	職員研修の実施	年間数回、魅力化事業の進捗状況報告と全体研修を行う。	
		年間数回、魅力化事業の進捗状況報告と全体研修が行われたか	実施回数
		3 進捗報告と全体研修が数回できた 2 進捗報告と全体研修が1 回できた 1 進捗報告と全体研修ができなかった	【評価】 2.0
		【成果】各担当間で実施。県が実施を指示している魅力化アンケートについて職員研修を実施し、魅力化についての研修を実施している。 【特記事項】魅力化事業の認識が定着させることについて、研修以外の方法がないか検討する。	
4	魅力化コーディネーターの継続的な配置	【成果】高校魅力化を行っていく上で各事業に携わる魅力化コーディネーターの継続的な配置を要望する。	
		各事業に携わるコーディネーターの継続的な配置をすることができたか	担当者による振り返り
		3 各事業に携わるコーディネーターが配置されている 2 おおむね配置されている 1 一部の取り組みは教員のみ	【評価】 3.0
		【成果】令和6年度よりLinkベースの設置を行い、魅力化CNが安定して配置できる仕組みを作っている。	

⑥魅力化推進体制

②外部機関との連携

番号	事業名	第2次構想の具体的取り組み	
		目標	評価方法
		評価基準（3 良い 2 ふつう 1 悪い）	
		成果・特記事項	
1	高校に関わる人たちの関係の継続	卒業生を含め、まち親、地域住民など高校周辺あるいは関わりがある県外の方と関係を継続的に保持する。	
		卒業生を含め、まち親、地域住民など高校周辺あるいは関わりがある県外の方と関係を継続的に保持できているか	担当者による振り返り
		3 多くの人と関係を継続的に保持できている 2 一部の人と関係を継続的に保持できている 1 関係を継続的に保持できていない	【評価】 2.8
		【成果】保持できている。県外での生徒募集活動など、卒業生の協力を得る機会等につながった。 【特記事項】協力を得る際に、事前の打ち合わせ等を実施して発信する情報等の共通認識を図ることは必須になる。	
2	県外サポーター制度の継続実施	県外サポーターの登録をしていただき、生徒募集時のPR活動やイベント等の支援体制を構築する。	
		県外サポーターへ登録をし、生徒募集イベント時に保護者の方がPRのサポーターで参加してくれたか	県外サポーターに登録した人数
		3 保護者の方がサポーターに登録し、生徒募集イベントへの積極的な参加があった 2 保護者の方がサポーターに登録したが、生徒募集イベントへの参加はなかった 1 保護者の方がサポーターに登録せず、生徒募集イベントにも参加がなかった	【評価】 1.8
		【成果】保護者サポーターの登録はあるが、生徒募集のイベントには卒業生が参加しており、保護者の参加は多くなかった。 【特記事項】1の特記事項と同様。	
3	高校を取り巻くネットワークの構築（大学や塾などの関係機関）	大学や塾などの学校外で関係する機関と連携しながら、高校の支援体制の枠組みを広げる。	
		大学や塾などの学校外で関係する機関と連携しながら、高校の支援体制の枠組みを広げられたか	担当者による振り返り
		3 多くの人と関係を継続的に保持できている 2 一部の人と関係を継続的に保持できている 1 関係を継続的に保持できていない	【評価】 2.4
		【成果】他地区の塾関係者やスポーツクラブの関係者等のネットワークにおいて、本校の情報発信がされてきた。 【特記事項】1の特記事項と同様。	

第2章

第3次まちごと キャンパス構想

第2章 第1節 目指すビジョン

1) 目指すビジョン

I スクールミッション

1 地域を愛し、夢をかなえる若人の育成～島根の中央からの挑戦～

2 教育目標（本校の使命）

地元の生徒に加え、全国から集まる生徒たちが相互に刺激し合いながら、地域・行政が総ぐるみで学校の魅力化を支援してもらう中で「自ら考え、行動し、知恵や思いを共有しながら、共に未来をつくっていく人材を育てる」

II スクール・ポリシー

1 生徒育成方針（グラデュエーション・ポリシー）

（1）地域に愛着と誇りを持ち、地域の発展に貢献できる生徒

（2）自らの課題や目標を設定し、自己実現に向けて主体的に取り組む生徒

（3）多様性を認め、協議しながら、課題を解決できる生徒

（4）自己肯定感・自己有用感を抱ける生徒

2 身につけさせたい資質・能力

（1）地域の課題や動向に関心を持ち、主体的に取り組む能力（挑戦）

①自ら学ぼうとする姿勢

②質問や意見を発言する姿勢

③自ら役割を担おうとする姿勢

（2）他者と円滑な人間関係を構築する能力・協働する能力（共生）

①お互いを認め、尊重し合う力

②対話によって、状況や取り組みをより良くしようとする力

③組織や状況を認識し、自分が何をすべきか判断する力

（3）社会生活を営む資質・能力（自立）

①自己管理能力

②コミュニケーション力

③社会貢献意識

3 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

（1）幅広い進路に対応する「教科・科目」

（2）学ぶ力をつける「探究の時間」

（3）人間力を育てる「部活動」

（4）社会人力につなげる「課外活動」

第2章 第2節 第3次まちごとキャンパス構想の役割と基本方針

1) 構想の役割

このたび策定した第3次まちごとキャンパス構想には次の役割を期待する。

- ・ 本校の教職員および各事業にかかわる関係者がこの構想を共有することで、具体的な事業内容を明らかにし、魅力化事業の円滑な推進と本校の教育目標達成に貢献する
- ・ 構想の各事業の具体的取り組みの評価を適切な時期に行うことで、取り組み内容の修正を図るとともに、新たな事業策定の根拠資料とする

2) 基本方針

構想の策定はおおよそ以下のような考えに基づく。

- ・ 学習指導要領（平成30年3月公示）に示された「社会に開かれた教育課程」及び「県立高校魅力化ビジョン」（島根県教育委員会平成31年2月作成）の趣旨に則って策定すること
- ・ 具体的取り組みの円滑な遂行のために、学校内の役割分担や学校外の支援者の役割をできるだけ明確にする
- ・ 適切な評価を行うための、評価の方法と評価基準をできるだけ具体的に示すこと

以上を踏まえて、次表にある第3次構想の6つの基本方針を定めた。

なお、魅力化事業を進めていく中で、適切な時期に各取り組みに対して行う評価結果および教育創生コンソーシアム島根中央の助言等により、取り組み内容に適宜修正を図る柔軟な姿勢が求められる。

<基本方針>

構想の柱	項目	具体的事業の例
1 学習支援	(1)進路実現にむけた学習支援	・総合選抜型・学校推薦型選抜（旧AO・推薦入試）対策の強化 ・進学ゼミ活動の充実 ・公営塾との連携
	(2)地域をフィールドにした学びの充実	・探究学習 ・インターンシップ活動の促進 ・地域文化・産業を活かした学習の推進
2 地域協働学習	(1)自主活動の推進	・ボランティア活動の推進 ・校外での探究活動の支援 ・各団体が企画するキャリア形成に関わるプログラムへの参加
	(2)交流活動機会の創出・拡充	・異校種との連携 ・大学生との交流機会の創出 ・外国人住民・留学生との交流機会の創出
3 部活動支援	(1)支援体制の強化	・活動資金の確保 ・外部指導員の活用
	(2)活躍を広める場の充実	・適正な部活動数の維持 ・活動の魅力のPR
4 生活支援	(1)寮運営の安定化	・安定的な体制の維持 ・寮生の自治運営
	(2)生活保障制度の継続	・まち親確保の取り組み ・通学に関わる支援
5 人財循環	(1)人財確保の取り組み	・情報発信媒体の作成
	(2)情報発信・人財還流の促進	・SNSやホームページによる情報発信 ・学校だより等の紙情報の配布
6 協働推進体制	持続的な事業運営の推進	・魅力化コーディネーターの継続的な配置 ・外部団体との連携の維持

第2章 第3節 具体的取り組みと役割分担

1 学習支援

(1)進路実現に向けた学習支援

【目的・内容】

生徒の多様な進路希望を実現するため、生徒一人ひとりの学力に応じた学習支援体制の充実や、進学・就職などの目的に応じた学習指導体制の充実に取り組む。

そのため、学校全体ですべての生徒に対する学習指導体制を維持しつつ、自分に合った進学先を選べるよう、国公立大学や難関私立大学も視野に入れた学びで将来の選択肢を広げる力を支援しながら、上級学校進学に向けたモチベーションの向上と学力の向上を図る。

あわせて、総合型選抜・学校推薦型選抜をはじめ、民間就職試験や公務員試験など、多様な形態・難易度の試験に対応した進路支援を進め、生徒の進路目標の実現を目指す。

【具体的な事業】

番号	事業名	内容等	評価方法	担当
①	総合選抜型・学校推薦型選抜対策の強化	全学年希望者を対象に、外部委託にて指導を行う。プレゼンテーションや小論文等の試験で問われる指導に加え、自己整理等試験対策の下地になるサポートも行う。 自らのキャリアを振り返り、その取組を整理・集約することで、自己分析を深め、各種試験対策の基盤となる力を養うための支援も行う。	入試合否結果	進路部 魅力化CN 高校支援室
②	進学ゼミ活動の充実	日常の学習環境整備、勉強合宿、予備校講習受講を通じて国公立大学・難関大学への進学を希望する生徒へのトータルサポートを行う。	生徒の学習成績 入試合否結果	進路部 魅力化CN 高校支援室
③	公営塾との連携	寮生を含め、学びの場の提供とより深く高度な内容を習得できるよう支援する。部活動との両立ができるよう実施時間等を配慮する。 学校と塾との共存を図る。	参加者の満足度	主幹教諭 進路部 高校支援室

※CN＝魅力化コーディネーターの略

※高校支援室＝川本町まちづくり推進課高校支援室

(2)地域をフィールドとした学びの促進

【目的・内容】

生徒は地域とつながりのある授業を通して、地域の良さや課題などの現状を学ぶ。また、実社会や実生活との関わりから、生徒自身が見出した課題を自分事として探究する中で、主体的に学びに向かう力や論理的思考力を育むことが期待される。この学びを活かし、企業などと連携して生徒の進路実現に向けた知識・技能・態度を育成する取り組みにもつなげることを目指す。具体的な方法として、キャリア・パスポートの活用を図る。活動の内容を振り返り、それを記録として残すことで活動がより効果的になる取り組みを行う。

【具体的な事業】

番号	事業名	内容等	評価方法	担当
①	探究学習・インターンシップ活動の促進	地域への思いをもって仕事や活動をしている社会人や大学生、または、企業との連携できる場を設定する。また、町内だけでなく他地域も含め、将来の志望職種を考えるためのインターンシップに参加を促し、その経験を進路選択に活用していく。	実施の有無	主幹教諭 科目担当 魅力化CN 高校支援室
②	地域文化・産業を活かした学習の促進	自ら課題を見つけ、地域をフィールドにして課題を解決する能力を育成する。	担当者による振り返り	主幹教諭 魅力化CN 科目担当

2 地域協働学習

【目的・内容】

地域社会で体験する場、学ぶ場が多くあることを生徒に情報提供する必要があり、様々なプログラムの紹介を生徒に対して継続的に行う。そのために学校と地域を結ぶコーディネーターの役割が重要となる。

(1)自主活動の推進

【具体的な事業】

番号	事業名	内容等	評価方法	担当
①	地域活動の参加機会の情報提供と参加の促進	地域活動の情報を生徒・地域・高校が共有しながら、生徒に参加を促す。	地域活動への参加機会数	教育創生部 魅力化C N
②	地域活動実績の記録と蓄積	ボランティア、イベントなど生徒が参加した活動をキャリアパスポートに記録し、その実績を生徒自身が活用できるようにする。	活動実績の記録と蓄積状況	教育創生部 進路部
③	グローバルチャレンジ事業の促進	自身の挑戦や地域のために自らが計画・実践する課外活動および自治体等が主催する海外研修に参加する生徒に対して助成を行う。（ドリカムチャレンジ助成・グローバルチャレンジ助成）	助成対象者の人数	高校支援室 魅力化C N 教育創生部

(2)交流活動の機会創出・拡充

【具体的な事業】

番号	事業名	内容等	評価方法	担当
①	生徒の主体性な地域活動への参加の促進	地域行事（スポーツイベント、祭り、講演会、交流会など）の情報を提供し、個人やグループ・部活動単位等で参加できる機会を作る。	参加した行事の数	教育創生部 各部活動顧問 魅力化C N
②	保・小・中・高の交流活動	教育委員会や他団体が主催する保・小・中との交流活動についての情報を提供し、参加の機会を作る。	参加活動数	教育創生部 魅力化C N
③	大学生や外国人（留学生など）との交流活動	大学生や外国人の方が様々な目的で来町する機会を活用し、生徒と交流できる機会を作る。	参加活動数	教育創生部 関連する教科の担当者 魅力化CN

3 部活動支援

【目的・内容】

それぞれの部活動の活性化を図る。そのために、教職員だけでなく外部指導員（部活動指導員、地域連携指導員、地域指導者）の配置、町からの支援活用など、部活動指導体制の整備、充実を進める。また、中学校との交流・体験活動などを通して、本校の部活動のPRと安定した部活動運営をねらいとする。

(1)支援体制の強化

【具体的な事業】

番号	事業名	内容等	評価方法	担当
①	外部資金の確保	クラウドファンディングや助成金・補助金を活用し、部活動で使用する設備・備品の充実や活動の強化を図る。	充足度	生徒部 後援会 魅力化CN 高校支援室
②	外部指導員の活用	専門的知識・経験を有した外部指導員等の活用を行うことで、部活動成績・生徒保護者の満足度の向上につなげる。	生徒・ 保護者 満足度	生徒部 各部活動顧問 高校支援室

(2)活躍を広める場の充実

【具体的な事業】

番号	事業名	内容等	評価方法	担当
①	適正な部活動数の維持と生徒のニーズに合った部活動の提供	適正な部活動数を維持する。また、近隣中学生の活動機会を広げるために高校の部活動を受け皿にする。	部活動 加入率	生徒部 各部活動顧問
②	近隣中学校との合同練習や交流会の実施	近隣中学校に設置されている部活動と、合同練習やイベントなどで連携する。生徒による部活動の魅力PR活動を実施する。	合同練習 等の実施 部活動数	生徒部 各部活動顧問

4 生活支援

(1)寮運営の安定化

【目的・内容】

「江風寮」と「学習交流センター」および「C Pieces+（シーピース）」の3つの運営で、運営主体である本校と町、それぞれの関係職員や委託業者など寮に関係する者が、十分意思の疎通が図れる連携体制を整える。また、保護者に対してしっかりと情報発信をするとともに、在籍している生徒による自治運営の力を向上させることができれば理想的である。

【具体的な事業】

番号	事業名	内容等	評価方法	担当
①	安定的な運営体制の維持	定期的な寮務部会を開催する。また、保護者との連携に向け、寮生だより発行や寮生保護者会（10月Web開催）などを通じた情報発信を積極的に行う。	開催回数	寮務部 高校支援室 魅力化CN
②	寮生による自治運営	寮生活を通じた人間形成、課題解決力の向上、充実した生活環境維持に向け、寮生活トレーナーと連携した幹部会の充実と寮全体への周知・協力を図る。	生徒の取り組み状況	寮務部 高校支援室 魅力化CN
③	寮生によるイベント実施	寮生が各寮の状況を踏まえたイベントを企画する。	実施回数	寮務部 高校支援室 魅力化CN
④	食事の充実	定期的な食事アンケートを実施し、生徒のニーズ把握と食事の充実を図る。各学期に1回連続する土日、「川本の食を楽しむ日」をつくり、川本での食事を楽しむ場を充実させる。	食事アンケート	寮務部 高校支援室 魅力化CN
⑤	地域活動に参加しやすい環境づくり	地域活動、伝統芸能などへの参加を促すため、情報の周知、参加への呼びかけ、門限の柔軟な対応などを行い環境を整える。	参加生徒数	寮務部 高校支援室 魅力化CN

(2)生活保障制度の継続

【目的・内容】

まち親制度は、あくまでもボランティアとしての関わりであるが、引き続き町と連携しながら継続していく。また、通学助成制度についても維持をしていく。

【具体的な事業】

番号	事業名	内容等	評価方法	担当
①	まち親確保のための取り組みの充実	高校、高校支援室の役割を明確化する。まち親募集活動の仕組みをつくり、まち親が担う役割を明確にする。また、まち親だけを集め、情報交換や役割についての確認などを行う「まち親会」を実施する。	まち親登録数	総務部 高校支援室 魅力化CN
②	通学に関わる支援	通学に便利なバスダイヤの継続を要望し、スクールバスを適切に運行する。	通学可能圏域	総務部 後援会

5 人財循環

【目的・内容】

本校の魅力を知ってもらうための情報発信や県内外での広報活動は今後も継続実施する必要がある。情報発信については、教員と魅力化コーディネーターが協力し、様々な出来事ができる限りタイムリーに行う。また広報活動の際には、本校の魅力がより正確に伝わるよう意識する。島根県教育委員会や一般財団法人地域・教育魅力化プラットフォーム、都市部の塾関係者、卒業生や保護者とも手を取り合いながら行っていく。またホームページ、SNS、動画、紙媒体の統一感を持たせ、それぞれの役割を決めて運用する。

(1)人財確保の取り組み

【具体的な事業】

番号	事業名	内容等	評価方法	担当
①	学校案内パンフレット・イメージ動画の作成	ホームページへの誘導媒体とし、高校生活がイメージできるような内容にする。	担当者による 振り返り	主幹教諭 高校支援室 魅力化C N
②	オープンスクールの充実	在校生を運営スタッフとして参加させて、生徒目線で高校の良さを中学生、保護者に伝える機会をつくる。保護者向け個別相談ブースを設定する。	担当者による 振り返り	教務部 高校支援室 魅力化C N
③	県外での説明会・相談会参加・開催	しまね留学および地域みらい留学の仕組みを活用する。また、これ以外の合同説明会の機会があれば参加について検討する。	参加・ 開催回数	主幹教諭 高校支援室 魅力化C N
④	個別での説明等の対応	対面・オンラインでの説明会を適時実施することで、より多くの方に本校を知ってもらう機会を増やす。塾やスポーツクラブ等の団体等への説明も含めて幅広く対応を図る。	開催回数	主幹教諭 高校支援室 魅力化C N
⑤	人財定住助成金事業の活用	町が実施する人財定住助成金事業を活用し、多くの生徒が自分計画書を発表できるよう支援する。	活用者数	進路部 高校支援室

(2)情報発信・人材還流の促進

【具体的な事業】

番号	事業名	内容等	評価方法	担当
①	SNSによる情報発信	InstagramなどのSNS媒体を活用し、様々な教育活動をタイムリーに発信する。	更新回数	総務部 魅力化C N
②	ホームページによる情報発信	ホームページによって、様々な教育活動を発信する。SNSとの差別化を図る。	アクセス数	総務部 魅力化C N
③	学校だよりによる情報発信	島根中央高校だよりを発行し、中学校や近隣自治体に配布する。	発行回数	教育創生部 魅力化C N
④	学校案内パンフレットを利用したSNS・HPへの誘導	学校の情報を知るきっかけとなるものとし、ホームページやSNSへの誘導媒体となるようにする。	①および②のアクセス数	総務部 魅力化C N
⑤	自治体広報による情報発信	広報かわもとに様々な教育活動を掲載する	発行回数	総務部
⑥	バスシール・横断幕の設置	学校の情報(大会結果・イベント情報)を掲載する	設置件数	総務部 魅力化C N

6 協働推進体制

【目的・内容】

本校の魅力化を効果的、継続的に進めていくために、校内の各担当者（主幹教諭）、川本町（魅力化コーディネーター、高校支援室）が役割分担を明確にしつつ、しっかりと連携しながら具体的な取り組みを一つひとつ達成していくことが重要である。

【具体的な事業】

番号	事業名	内容等	評価方法	担当
①	安定した推進体制の維持	校内の各担当者、主幹教諭、川本町（魅力化コーディネーター、高校支援室）で共通認識を持ち、目標の共有化と役割分担の明確化を行う。また、事業の実施状況を教職員全体に周知する。	担当者による振り返り	主幹教諭 高校支援室 魅力化C N
②	魅力化コーディネーターの継続的な配置	魅力化に携わる魅力化コーディネーターの継続的な配置を要望する。	担当者による振り返り	主幹教諭 高校支援室
③	高校に関わる人たちとの関係の継続	卒業生を含め、まち親、地域住民など高校周辺あるいは関わりがある方と関係を継続的に保持する。	担当者による振り返り	主幹教諭 高校支援室 魅力化C N
④	外部団体との連携の維持	地域みらい留学、高大連携、公営塾等の学校の魅力化に繋がる外部団体との連携の在り方を明確にし、支援体制の枠組みを維持する。	担当者による振り返り	主幹教諭 高校支援室 魅力化C N

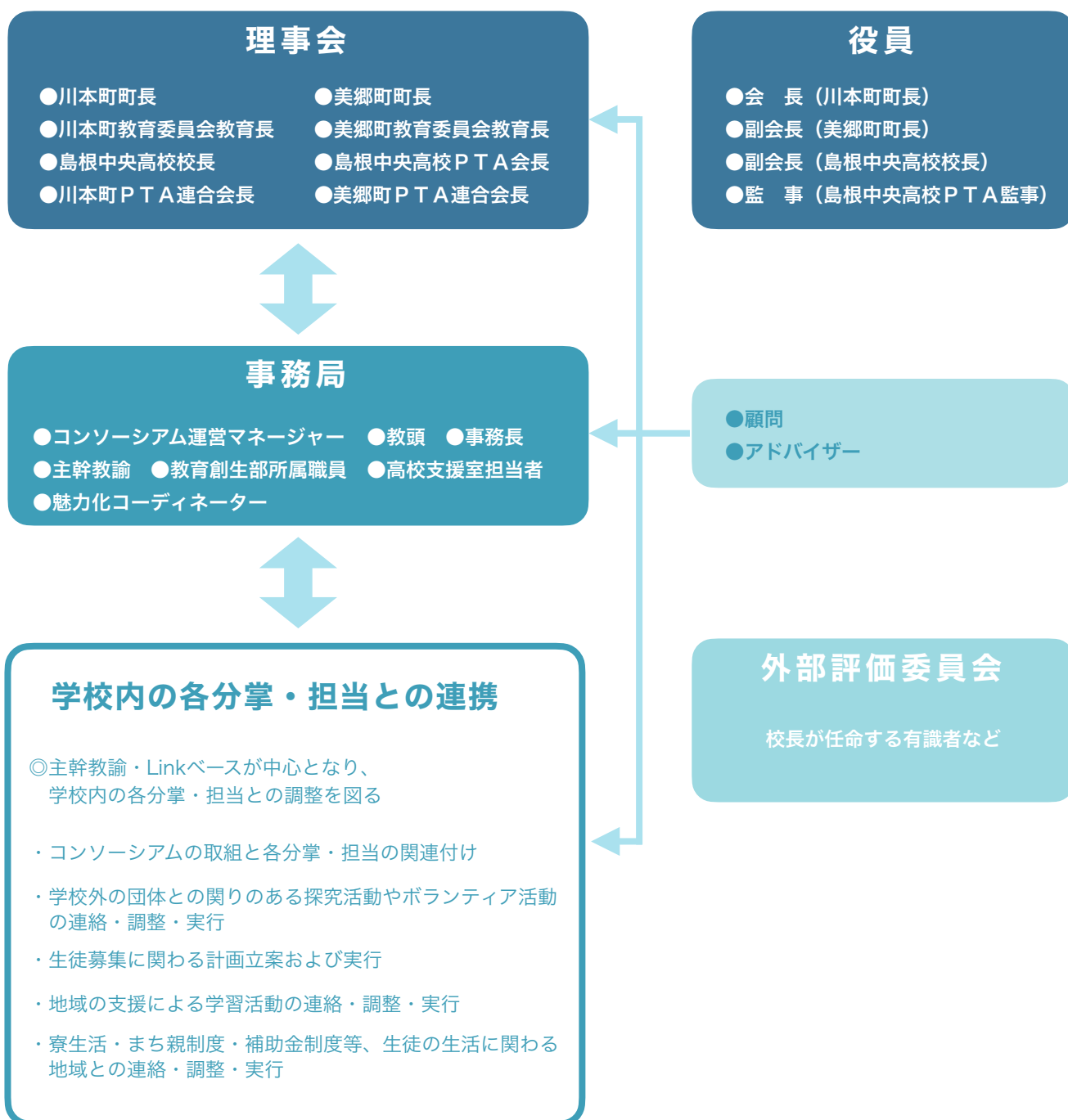
第2章 第4節 推進体制と具体的取り組みの評価

1) 高校魅力化コンソーシアム

これまで、本校は様々な形で地域と連携・協働した教育活動に取り組んできた。

その推進体制の一つの形が、教職員、生徒・保護者、小・中学校、大学、社会教育機関、地元企業、地域住民、関係団体など多様な立場にある人々がそれぞれに主体的に取り組める協働体制である。島根県教育委員会策定の魅力化ビジョンにおいては、この協働体制を「高校魅力化コンソーシアム」と称している。

<教育創生コンソーシアム島根中央 組織図>



2) 目標および評価基準と評価方法

1 学習支援

(1)進路実現に向けた学習支援

番号	事業名	目標	評価基準（3 良い 2 ふつう 1 悪い）
①	総合選抜型・学校推薦型選抜対策の強化	自分の強みを活かして、志望大学、短大に合格できたか	3 受験者の5割以上が合格 2 受験者の3割以上5割未満が合格 1 受験者の3割未満が合格
②	進学ゼミ活動の充実	模擬試験等の成績が向上したか 国公立大学、難関私立大学に合格できたか	(1) 生徒の学習成績 3 5割以上の生徒が成績向上 2 3割以上5割未満の生徒が成績向上 1 3割未満の生徒が成績向上 (2) 入試合否結果 3 国公立大学、難関私立大学合格者数が10名以上 2 国公立大学、難関私立大学合格者数が5名以上10名未満 1 国公立大学、難関私立大学合格者数が5名未満
③	公営塾との連携	積極的かつ自発的に学習に取り組むことができたか	3 参加者の満足率が8割以上 2 参加者の満足率が5割以上8割未満 1 参加者の満足率が5割未満

(2)地域をフィールドとした学びの促進

番号	事業名	目標	評価基準（3 良い 2 ふつう 1 悪い）
①	探究学習・インターンシップ活動の促進	学校活動の中に交流の場を設定し、生徒の活動を計画・実施する	2 実施できた 1 実施できなかった
②	地域文化・産業を活かした学習の促進	生徒が主体的・探究的に学習活動を行うように促す	3 ほとんどの生徒が主体的に取り組み、探究する態度を身につけることができた 2 半分以上の生徒が主体的に取り組み、探究する態度を身につけることができた 1 良い態度で取り組む生徒が少なく、探究する態度を身につけることができなかった

2 地域協働学習

(1)自主活動の推進

番号	事業名	目標	評価基準（3 良い 2 ふつう 1 悪い）
①	地域活動の参加機会の情報提供と参加の促進	参加機会の情報共有を行い、生徒が活動しやすい環境をつくる	3 学校に依頼があった案件のうち8割以上の情報を生徒に共有できた 2 学校に依頼があった案件のうち5～8割の情報を生徒に共有できた 1 学校に依頼があった案件のうち5割以下の情報を生徒に共有できた
②	地域活動の経験活用	地域活動についての記録を蓄積し、活用ができる状態を維持する	3 キャリアパスポートを利用して地域活動について全て記録しており、いつでも振り返ることができる 2 キャリアパスポートを利用して地域活動についてだいたい記録しており、振り返ることができる 1 キャリアパスポートを利用して地域活動についてほとんど記録、蓄積することができなかった
③	グローバルチャレンジ事業の促進	助成対象者の人数	3 対象者が2名以上 2 対象者が1名 1 対象者無し

(2)交流活動の機会創出・拡充

番号	事業名	目標	評価基準（3 良い 2 ふつう 1 悪い）
①	生徒の主体的な地域活動への参加の促進	他機関や地域の団体が実施する社会教育事業を活用した活動の機会を作る	3 生徒が参加した活動数が3つ以上あった 2 生徒が参加した活動数が1～2つあった 1 生徒が参加した活動がなかった
②	保・小・中・高の交流活動の機会の提供	他機関や地域の団体が実施する社会教育事業を活用した、保・小・中・高の交流活動の機会を作る	3 生徒が参加した活動数が3つ以上あった 2 生徒が参加した活動数が1～2つあった 1 生徒が参加した活動がなかった
③	大学生や外国人（留学生など）との交流活動	大学生や外国人の方が様々な目的で来町する機会を活用し、生徒と交流できる機会を作る	3 生徒が参加した活動数が3つ以上あった 2 生徒が参加した活動数が1～2つあった 1 生徒が参加した活動がなかった

3 部活動支援

(1) 支援体制の強化

番号	事業名	目標	評価基準（3 良い 2 ふつう 1 悪い）
①	外部資金の確保	設備や備品等が充足できているか（顧問・指導者評価）	3 設備や備品等が8割以上充足できた 2 5割以上充足できた 1 5割未満充足できた
②	外部指導員の活用	生徒・保護者が満足しているか	部活動に対して肯定的な回答の割合 （1）生徒の満足度 3 肯定的な回答が9割以上 2 肯定的な回答が8割以上9割未満 1 肯定的な回答が8割未満 （2）保護者の満足度 3 肯定的な回答が9割以上 2 肯定的な回答が8割以上9割未満 1 肯定的な回答が8割未満

(2) 活躍を広める場の充実

番号	事業名	目標	評価基準（3 良い 2 ふつう 1 悪い）
①	適正な部活動数の維持と生徒のニーズに合った部活動の提供	適正な部活動数を維持し、生徒に提供できたか	3 部活動加入率9割以上 2 部活動加入率8割以上9割未満 1 部活動加入率8割未満
②	近隣中学校との合同練習や交流会の実施	合同練習や交流会を実施できたか	3 年に8割以上の団体が実施した 2 年に5割以上の団体が実施した 1 年に5割未満の団体が実施した （近隣中学校に設置されている部活動数に対する割合）

4 生活支援

(1)寮運営の安定化

番号	事業名	目標	評価基準（3 良い 2 ふつう 1 悪い）
①	安定的な運営体制の維持	施設の運営にあたり、各寮の運営協議体で会議が開催されているか	3 年に3回開催されている 2 年に2回開催されている 1 年に1回開催されている
②	寮生による自治運営	寮長会議が定期的に開催されているか	3 月1回開催されている 2 隔月に開催されている 1 学期に1回開催されている
③	寮生によるイベント実施	寮生企画のイベントが実施できたか	3 寮生企画のイベントが各寮年に3回以上 2 寮生企画のイベントが各寮年に2回以上 1 寮生企画のイベントが各寮年に1回以上
④	食事の充実	食事の満足度	3 肯定的に答えた人が6割以上 2 肯定的に答えた人が4割以上6割未満 1 肯定的に答えた人が4割未満
⑤	地域活動に参加しやすい環境づくり	教育課程外の活動（地域活動、ボランティア活動など）に多くの寮生が参加出来ているか	3 年に1回参加した生徒が全寮生の5割以上 2 年に1回参加した生徒が全寮生の3割以上5割未満 1 年に1回参加した生徒が全寮生の3割未満

(2)生活保障制度の継続

番号	事業名	目標	評価基準（3 良い 2 ふつう 1 悪い）
①	まち親確保のための取り組みの充実	まち親が必要数確保できているか	3 必要数以上のまち親が確保されている 2 必要数のまち親が確保されている 1 まち親数が不足している
②	通学に関わる支援	通学可能圏域が維持されているか	3 公共交通機関により通学可能圏域が維持されている 2 公共交通機関とスクールバスの利用により通学可能圏域が維持されている 1 通学可能圏域が縮小している

5 人財循環

(1)人財確保・人材還流の促進

番号	事業名	目標	評価基準（3 良い 2 ふつう 1 悪い）
①	学校パンフレット・イメージ動画の作成	生徒・保護者の知りたいことに応えられていたか	3 適切だった 2 改善すべき点があった 1 大幅に改善すべき点があった
②	オープンスクールの充実	参加者にとって魅力的な内容になっているか 適切な情報を参加者に伝えることができたか	担当者間での相互評価に代える
③	県外での説明会・相談会の参加・開催	計画された企画のうち、どれだけ参加することができたか	3 参加・開催した説明会等が計画に対して8割以上 2 参加・開催した説明会等が計画に対して3割以上8割未満 1 参加・開催した説明会等が計画に対して3割未満
④	個別での説明等の対応	対面・オンラインで説明を行い、適切な情報を生徒・保護者に伝えることができたか	3 6組以上に対応した 2 1組以上5組以下に対応した 1 対応がなかった
⑤	人財定住助成金事業の活用	町が実施する人財定住助成金事業を活用し、多くの生徒が自分計画書を発表できるよう支援する	3 10名以上が事業に申請した 2 10名未満が事業に申請した 1 申請者がいなかった

(2)情報発信の推進

番号	事業名	目標	評価基準（３良い ２ふつう １悪い）
①	SNSによる情報発信	さまざまな教育活動をタイムリーに発信したか	3 更新回数が年間130回以上（3回/週） 2 更新回数が年間90回以上（2回/週） 1 更新回数が年間50回以下（1回/週）
②	ホームページによる情報発信	さまざまな教育活動をその都度分かりやすく発信できたか	3 アクセス数が180以上（1日あたり） 2 アクセス数が130以上180未満（1日あたり） 1 アクセス数が130未満（1日あたり）
③	学校だよりによる情報発信	学校だよりを年2回以上発行できたか	3 発行回数が年間4～6回 2 発行回数が年間2～3回 1 発行回数が年間1回以下
④	学校案内パンフレットを利用したSNS・HPへの誘導	SNSおよびHPのアクセス回数が増加したか	（〔①の評価値〕＋〔②の評価値〕）÷2
⑤	自治体広報による情報発信	広報かわもとに毎月掲載できたか	3 毎月掲載できた 2 2ヶ月に1回程度掲載できた 1 掲載がほとんどできなかった
⑥	バスシール・横断幕の設置	何回設置したか	3 年間で設置が10回以上であった 2 年間で設置が5回以上9回以下であった 1 年間で設置が4回以下であった

6 魅力化推進体制

番号	事業名	目標	評価基準（3 良い 2 ふつう 1 悪い）
①	安定した推進体制の維持	高校、川本町、魅力化CNで共通認識を持ち、目標の共有化と枠割分担の明確化を行う事ができたか	3 共通認識を持ち、目標の共有・役割分担の明確化ができています 2 共通認識を持ち、目標の共有はできています 1 共通認識が持てていない
		年間数回、各事業について、進捗報告等を行い振り返りができたか	3 進捗報告と振り返りを数回した 2 進捗報告と振り返りを1回した 1 進捗報告と振り返りができなかった
②	魅力化コーディネーターの継続的な配置	各事業に携わるコーディネーターの継続的な配置をすることができたか	3 各事業に携わるコーディネーターが配置されている 2 おおむね配置されている 1 一部の取り組みは教員のみ
③	高校に関わる人たちとの関係の継続	卒業生を含め、まち親、地域住民など関係を継続的に保持できているか	3 多くの人と関係を継続的に保持できている 2 一部の人と関係を継続的に保持できている 1 関係を継続的に保持できていない
④	外部団体との連携の維持	関係団体との連携が取れているか	3 関係団体との連携が効果的に保持できている 2 関係団体との連携が保持できている 1 連携を継続的に保持できていない

第3次まちごとキャンパス構想

資料

役割分担
(学習支援、地域協働学習)

具体的な事業			担当
1 学習支援	(1)進路実現に向けた学習支援	①総合選抜型・学校推薦型選抜（旧AO・推薦入試）対策の強化	進路部 魅力化CN 高校支援室
		②進学ゼミ活動の充実	進路部 魅力化CN 高校支援室
		③公営塾の活用	主幹教諭 進路部 高校支援室
	(2)地域をフィールドとした学びの促進	①探究学習・インターンシップ活動の促進	主幹教諭 科目担当 魅力化CN 高校支援室
		②地域文化・産業を活かした学習の促進	主幹教諭 魅力化CN 科目担当 進路部
2 地域協働学習	(1)自主活動の推進	①地域活動の参加機会の情報提供と参加の促進	教育創生部 魅力化C N
		②地域活動実績の記録と蓄積	教育創生部
		③グローバルチャレンジ事業の促進	高校支援室 魅力化C N 教育創生部
	(2)交流活動の機会創出・拡充	①生徒の主体的な地域活動への参加の促進	教育創生部 各部活動顧問 魅力化C N
		②保・小・中・高の交流活動	教育創生部 魅力化C N
		③大学生や外国人（留学生など）との交流活動	教育創生部 関連する教科の担当者 魅力化CN

役割分担
(部活動支援、生活支援)

具体的な事業			担当
3 部活動支援	(1)支援体制の強化	①外部資金の確保	生徒部 後援会 高校支援室 魅力化CN
		②外部指導員の活用	生徒部 各部活動顧問 高校支援室
	(2)活躍を広める場の充実	①適正な部活動数の維持と生徒のニーズに合った部活動の提供	生徒部 各部活動顧問 高校支援室
		②近隣中学校との合同練習や交流会の実施	生徒部 各部活動顧問
4 生活支援	(1)寮運営の安定化	①安定的な運営体制の維持	寮務部 高校支援室 魅力化CN
		②寮生による自治運営	寮務部 高校支援室 魅力化CN
		③寮生によるイベント実施	寮務部 高校支援室 魅力化CN
		④食事の充実	寮務部 高校支援室 魅力化CN
		⑤地域活動に参加しやすい環境づくり	寮務部 高校支援室 魅力化CN
	(2)生活保障制度の継続	①まち親確保のための取り組みの充実	総務部 高校支援室 魅力化CN
		②通学に関わる支援	総務部 後援会

役割分担
(人財循環、協働推進体制)

具体的な事業			担当
5 人財循環	(1)人財確保の取り組み	①学校案内パンフレット・イメージ動画の作成	主幹教諭 高校支援室 魅力化C N
		②オープンスクールの充実	教務部 高校支援室 魅力化C N
		③県外での説明会・相談会参加・開催	主幹教諭 高校支援室 魅力化C N
		④個別での説明等の対応	主幹教諭 高校支援室 魅力化C N
		⑤人財定住助成金事業の活用	高校支援室 進路部
	(2)情報発信・人材還流の促進	①SNSによる情報発信	総務部 魅力化C N
		②ホームページによる情報発信	総務部 魅力化C N
		③学校だよりによる情報発信	総務部 魅力化C N
		④学校案内パンフレットを利用したSNS・HPへの誘導	総務部 魅力化C N
		⑤自治体広報による情報発信	総務部
		⑥バスシール・横断幕の設置	総務部 魅力化C N
6 協働推進体制		①安定した推進体制の維持	主幹教諭 高校支援室 魅力化C N
		②魅力化コーディネーターの継続的な配置	主幹教諭 高校支援室
		③高校に関わる人たちとの関係の継続	主幹教諭 高校支援室 魅力化C N
		④外部団体との連携の維持	主幹教諭 高校支援室 魅力化C N

策定委員会

令和8年2月時点

運営部	島根中央高校職員	
	校長	渡邊 勝義
	教頭	坂井 樹史
	主幹教諭	又賀 智和
	総務主任	今田 寿夫
	教務主任	小松原 研
	生徒指導主事	和田 誉司
	進路指導主事	佐野 剛
	寮務主任	駒川 一彦
事務局	川本町 まちづくり推進課	
	課長 高校支援室 室長	伊藤 和哉
	高校支援室 係長	道畑 和也
	魅力化コーディネーター	大畑 直子
	魅力化コーディネーター	吉村 朋子
	魅力化コーディネーター	波多野 あかり
	コンソーシアム運営マネージャー	岩 義博
	一般社団法人asolab	
	代表	大村 信望

島根中央高等学校第3次まちごとキャンパス構想

令和8年3月策定

発行/島根中央高等学校 第3次まちごとキャンパス構想策定委員会

○島根県立島根中央高等学校

〒696-0001 島根県邑智郡川本町大字川本222

TEL 0855-72-0355 FAX 0855-72-0388

○島根中央高等学校高校支援室（川本町まちづくり推進課内）

〒696-8501 島根県邑智郡川本町大字川本271-3

TEL 0855-72-0634 FAX 0855-72-0635